



指導案例

- ・ 教科：総合的な学習の時間・社会科
- ・ 時間配当：全10時間

主題名：「ユニバーサルデザインを探そう」

1 ねらい

バリアフリーとは、町の中にある障害を取り除くことから始まる活動である。ユニバーサルデザインは、一歩進めて、町をつくっていくときに誰にでも使いやすい、誰にでも優しい町づくりを目指す活動である。

町の中にユニバーサルデザインを探しながら、まだまだ多くのバリアーが存在することや、これからの町づくりには、バリアーのない町づくりが望まれていることに気づかせたい。

実際に「アイマスク体験」「車椅子体験」「インスタントシニア体験」をして、障害者やお年寄りの立場に立って町を体験する活動と、障害を取り除くために施された様々な工夫や努力を体験したり調べたりして、身近な町の中にも、様々な人々に優しい施策が必要であることや、自分たちにもできることがあることに気づく活動である。ふだんの生活では気づかないことに、これからの重要な見方や考え方があることを知り、自分の考えや生き方に取り入れることができるようにしたい。

2 活動の流れ

(1) 学習のテーマをとらえる。

《ユニバーサルデザインを探す》

- ①身の回りにユニバーサルデザインのものがあることに気づく。
- ②身の回りのユニバーサルデザインのことを調べる計画を立てる。

(2) 本やインターネットを使って、ユニバーサルデザインのことを調べる。

《身近にあるユニバーサルデザインの発表》

- ①家庭で使っているユニバーサルデザインの品物を調べる。
- ②町の中にあるユニバーサルデザインを調べる。

(3) 高齢者・障害者の日常を体験をする。

- ①「アイマスク体験」「車椅子体験」「インスタントシニア体験」のうちから一つを選び、体験する計画を立てる。
- ②学校の中で体験をする。
- ③町に出て体験をする。

(4) 体験をしたことをみんなに発表する。

- ①グループごとに体験したことをまとめ、発表の準備をする。



- ②調べたことをもとに情報交流する。
- ③交流したことで考えたことや、思ったことを話し合う。
- (5) ユニバーサルデザインについて考え、発表する。
 - ①ユニバーサルデザインについて考えを発表しあう。
 - ※ユニバーサルデザインがものだけでないことに気づかせたい。
 (心のユニバーサルデザイン)
 - ②これからやっていこうと思うことをまとめ、掲示する

3 学習の展開

	学 習 活 動	留 意 点
1 時 間	1 身の回りにユニバーサルデザインのものがあることに気づく。 2 身の回りにあるユニバーサルデザインのことを調べる計画を立てる。 ・どんなところに使われていそうか予想したり、調べ方を考えたりする。 例：テレホンカードの切り込み、リモコンや電話の数字のボタン、など。	・テレホンカードや携帯電話などを示しながら、ふだんは気づかないようなところに、ユニバーサルデザインがあることを示して、興味や関心を喚起する。 ・自分の興味などをもとに、調べ方の方向を選択する。自分なりのアプローチが出されることが望ましい。
2 時 間	1 本やインターネットを使って、ユニバーサルデザインについて調べる計画を立てる。 2 家庭で使っているユニバーサルデザインの品物を調べる。 3 町の中にあるユニバーサルデザインを調べる。	・図書室の本やインターネットを利用して調べる計画を立てる。 ・家庭の中で、ふだん使っている品物を見直す活動も有効。 ・ふだん使っている登校・下校の通学路を観察することから始めるのもよい。 ・ユニバーサルデザインは、ものだけではなく、心にも関係することをおさえない。
3 時	1 体験学習計画を立てる。 ・「アイマスク体験」「車椅子体験」「インスタントシニア体験」のうちから1つを体験する計画を立てる。	・体験の種類を知り、どの体験をしたいか、なぜその体験をしたいかなど、目的をしっかりと考えさせてから計画を立てることができるようにしたい。



<p>間</p>	<p>2 計画にしたがって学校の中で体験をする。 (体験学習) ・例: アイマスク体験, 車椅子体験, インスタントシニア体験, など</p> <p>3 計画にしたがって, 町に出て体験をする。 (体験学習) ・例: 道路の点字ブロック, 信号機の誘導用の音楽, 車椅子でも利用できる公衆電話ボックス, 駅の 切符の自動販売機, など。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・階段や坂道など, ふだんは気づかない ところにたくさんの障害があること, スロープなどの工夫をしていることな どを捉えることができるようにした い。 ・危険性も伴うので, 事前に安全指導を 徹底し, グループで活動しながら, 安 全に十分に注意するようにさせる。
<p>(4) 3 時 間</p>	<p>1 体験をしたことをみんなに発表する。 ①グループごとに体験したことをまとめ, 発表の 準備をする。 ②調べたことをもとに情報交流する。 交流したことで考えたことや思ったことをもと に話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・いよいよ未来へ向けての調査になる。 視点をしっかり持たせておきたい。 ・調べたことを発表し合い, 疑問点や困 っていることなども相談させる。 ・ユニバーサルデザインは, ものだけ ではなく, 心にも関係することを再度お さえたい。
<p>(5) 2 時 間</p>	<p>1 自分にもできることを考え, 実行していくには どうしたらよいかを話し合う。 ①心のユニバーサルデザインについて, 考えを 発表しあう。 ②これからやっていこうと思うことをワークシ ートなどに書き, 掲示する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉の学習は, 心の問題を最も大切と する。ここでの話し合いや子どもの 自発的な気づきを大切にしたい。

4 参考教具

疑似体験セット, 体験用点字ブロック, コンピュータ

5 参考資料

・《静岡県の取り組み》小・中学生向けユニバーサルデザイン教材

<http://www.pref.shizuoka.jp/kikaku/ki-10/news/kyouzai/udkyouzai.htm>